

1. 記述式 出題予想テーマ

記述は 毎年 3 問・60 点配点。採点の差がつくため最重要。

(1) 民法

- 相続・遺言

→ 高齢化と相続トラブルの増加に伴い、近年の出題頻度高め。

予想例：

- 自筆証書遺言の要件（2020 年法改正後のルール）
- 遺留分侵害額請求権の要件と効果
- 相続放棄・限定承認の手続

(2) 行政法

- 行政処分の取消訴訟

予想例：

- 処分性の判断基準（最高裁判例）
- 行政不服申立ての要件と審査請求制度
- 裁量権の逸脱・濫用の判断基準

(3) 商法・会社法

- 取締役の責任

→ 記述に初出題される可能性が高まっている。

予想例：

- 善管注意義務違反の要件
- 株主代表訴訟の仕組み

2. 多肢選択・文章理解の予想

(1) 時事問題

- 行政書士法改正（2023 年・2024 年の流れ）

→ コロナ禍での不正受給対応、オンライン申請の拡充など。

「行政書士が果たすべき役割」や「代理権の範囲」が題材になる可能性大。

- 補助金・給付金制度

→ 不正受給対策、申請手続の適正化が社会的関心事。

(2) 文章理解

- 高齢社会に関する政策文書（介護・相続・地域包括ケアなど）
 - AI・DX の行政利用に関する国の審議会資料
-

3. 短答式 出題傾向

(1) 憲法

- 表現の自由と規制（通信・ネット関連）
- 新しい人権（環境権、プライバシー権、自己情報コントロール権）

(2) 民法

- 契約法（錯誤・意思表示・解除）
- 債権法改正後の判例（保証、消滅時効）
- 家族法（相続・遺言・親子関係）

(3) 行政法

- 行政行為の効力（取消・撤回・無効）
 - 国家賠償法 1 条・2 条の判例
 - 情報公開・個人情報保護制度（最新改正）
-

4. 狙い撃ち予想問題（例）

記述式予想（民法・相続）

A が自筆証書遺言に「全財産を長男 B に相続させる」と記載したが、署名押印を忘れていた。この遺言の効力について、遺留分を有する二男 C の権利とあわせて論じなさい。（40 字～60 字程度）

5. 学習アドバイス

- 過去問はテーマ別に演習：特に民法・行政法は反復必須
- 記述は要件を整理して文章化する練習：判例の言い回しを使う
- 時事対策：新聞・行政書士会 HP・官報で最新動向をチェック
- 試験直前期：予備校が出す「ヤマ当て模試」を必ず活用